

ラティス青山スクエア竣工



エントランス

設計コンセプト

ラティス青山スクエアは、もともとこの地に建っていた「ラティス青山」の記憶をどう継承するかを考えることから設計を始めました。

「ラティス青山」の1階エントランスホールには、外苑東通り側のメイン扉から向かって、右側にカフェの入り口と上階へのエレベーター、左手には本と雑貨を売るお店があり、駅側に面して通用口がありました。本来であれば施設利用者のみが立ち入りを許される場所でありますながら、さながら公道のように、このビルに直接用事がない人々も自由に行き来し、にぎわいが生まれていることがとても印象的でした。

場所の記憶を継承する建築計画

そこで、事業者と一緒に考えたのは、24時間365日通行可能なにぎわいスペースを設け、そこに店舗、エントランスホール、イベント利用可能なラウンジ、オーブンイノベーションオフィス「SENQ」のレセプション、オーブンエアな半屋外のオフィス、公園に面した環境のよいハナレのような会議スペースといった、このビルの特徴となるような場所が一堂に会した空間をつくることでした。

オフィスエリアに上がると、そこには、赤坂御用地、渋谷・六本木・赤坂エリアが見通せる4面とも眺望の良い執務空間が広がっています。環境性能と眺望を両立させるために、ガラス張りのダブルスキニーシステムとし、快適な空間づくりを行いました。

従前の建物の名称となった「ラティス（格子）=人と人が出会う結節点」の意志を引き継いだ新しいラティス青山スクエアで、さまざまな出会いが生まれ、人と人が触発しあい、青山エリアの次にぎわいの中心地となっていくことを心より願っています。

株式会社 三菱地所設計
建築設計4部 部長 松井 章一郎
同主幹 高野 大樹
同副主事 藤 貴彰



日本土地建物が東京都港区南青山で開発を進めていたオフィスビル「ラティス青山スクエア」が完成した。東京メトロ・青山一丁目駅に隣接する好立地に位置し、整形無柱空間と四面採光の効率性のワークフレースを実現した。南北の2層吹き抜け通路が地域とのつながりにぎわいを生み出し、災害対策やセキュリティ、環境配慮などの機能を充実。テナントの新しい事業価値の創造をサポートする。通りに面したガラスカーテンウォールには周辺の建物や緑が映り込み、青山の新しいランドマークに名づけられた。また、見せていく。設計・監理は三菱地所設計、施工は戸田建設が担当した。

日本土地建物株式会社
取締役常務執行役員

阿部 徹



事業のイノベーション、発展に寄与

かねて建設を進めておりました「ラティス青山スクエア」が、このたび竣工を迎えることができました。これもひとえに共同事業主である東京都交通局様をはじめ、ご近隣や工事に携わられた関係各位のお力添えのたまものと衷心よりお礼申し上げます。

当ビルは、複数路線が利用可能な「青山一丁目駅」から徒歩1分の好立地で、かつ高機能のオフィスビルです。外観デザインは青山のブランド性を意識し、ガラスカーテンウォールによる上質なイメージを創出しています。四面採光による開放感と断熱性能を両立するダブルスキニーケンを採用したほか、72時間稼働の非常用発電設備や災害備蓄倉庫など、テナント様へのB C P（事業継続計画）対応にも万全を期しています。加えて、テナント様にご利用頂ける貸会議室等のオフィスサポートも充実させました。

当社が開発するオープンイノベーションオフィス「SENQ」も開設する予定です。テナント様のさらなる発展に寄与するとともに、地域の皆さんに末永く愛されるビルに育てていきたいと思います。

新たな出会い、にぎわいを創出する中心地に

設計・監理／三菱地所設計 施工／戸田建設



2層吹き抜けの南北貫通通り
（外苑東通り側から見る）

品格ある土地柄に配慮しながら安全施工を徹底

施工のポイント
現地は東京メトロ青山一丁目駅上部の青山通りと外苑東通りに開まれた一画。地下鉄の地上出入り口に隣接し、日中は常に大勢の歩行者が行き交っている。

戸田建設の遠藤哲也所長が現場運営で最優先したのが、「建物は、長方形の歩道を走りますが、敷地を自いっぱい活用しています。人通りの多い風が強い場所で、特に運営で最優先したのが、第三着火防の徹底。

「建物は、長方形の歩道を走りますが、敷地を自いっぱい活用しています。人通りの多い風が強い場所で、特に運営で最優先したのが、第三着火防の徹底。

歩行者が行き交っている。

戸田建設の遠藤哲也所長が現場運営で最優先したのが、「建物は、長方形の歩道を走りますが、敷地を自いっぱい活用しています。人通りの多い風が強い場所で、特に運営で最優先したのが、第三着火防の徹底。

歩行者が行き交っている。

<p